

一切経山山行報告

【山行日】2020年 8月 18(火) 晴れ

【集 合】栃木市運動公園 P AM 3:50

【費 用】マイカー1台 : 5,500円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、清水、福島

【コースタイム】 栃木市運動公園 P3:50＝

浄土平 P6:20/6:40～酸ヶ平避難小屋 7:30/7:40～

一切経山 8:10/8:20～家形山 9:10/9:20～一切経山

10:10～酸ヶ平避難小屋 10:45～鎌沼 11:05/11:45

～浄土平 12:20/12:30～吾妻小富士 13:00～

浄土平 13:30/13:40＝栃木市運動公園 P16:35



五竜岳～鹿島槍ヶ岳のハードな縦走の後なので、楽に登れて大展望を楽しめる山は何処かと探し、一切経山から家形山に登る計画にした。平日山行で参加者は4名と淋しく、高速料金を少しでも安くするため栃木 IC に4時前に入る。東北道を北上し福島西 IC で降り、国道115号線から高湯温泉を経由して吾妻スカイラインを通り浄土平に着く。時間が早い為駐車料金を取られず、レストハウ



ス前の特等席に車を止められた。出発の準備を整え、トイレとストレッチを済ませたら出発する。ビジターセンターの脇を通り、砂利の駐車場を抜けると登山道に入る。昨夜の雨で登山道に水が流れているが、水を避けて石の上を歩き酸ヶ平へと登って行く。登山道脇にはミヤマアキノキリンソウやエゾリンドウ、ウメバチソウ等の花が咲き、すっかり秋の装いに変っていた。右手に一切経山の噴気口が見え「あの白い煙は何ですか？」とS水さんが質問すると、「あれは噴気口

から水蒸気が上がってるのよ」とF島さんが返す。階段状の登山道を登って行き、傾斜が緩くなると視界が開け酸ヶ平へとたどり着く。平坦な木道を歩くようになり、標識が立つ分岐を右に進むと避難

小屋に着く。避難小屋にはトイレが併設されており、女性にとってはとてもありがたい。小屋からは沢筋を登って、一切経山の斜面に取りつく。ガレた急坂を登り、広いガレに出ると傾斜が緩くなり右下に吾妻小富士の火口が見下ろせる。緩やかに登ると山頂に登り着き、大きな石積みと祠がある。広い山頂からはさえぎる物が無い大展望が広がり、眼下には不思議なブルーの五色沼が望める。「魔女の瞳」と呼ばれる五色沼を、これほどはっきりと望むのは久しぶりのことだ。前回も前々回もガスに隠れて、ガスが晴れるとブルーの瞳が少しだけ望めた。



今日は魅惑の瞳を眺めながら、メロンや菓子を食べて至福のひとつ。山頂からは五色沼に向かって下って行き、湖畔の西側を進む。湖畔の道から魔女の瞳を間近で臨み、陽射しを受けてブルーの



色に変化する。五色沼を過ぎると分岐になり、道標に従って左に登って行く。灌木帯の急坂を登り、最後は岩場の急登を登り切ると家形山山頂に出る。山頂は石積みがあり、奥の樹林の中に家形山の札が下がっている。振り返ると五色沼が青く輝いており、反対側から眺める魔女の瞳は一段とブルーが際立っていた。魔女の瞳を眺めながらおやつをいただき、記念写真を撮ったら下山する。下山は往路を戻り、一切経山への登り返しはきついが、もう一度

展望を楽しめる。酸ヶ平避難小屋まで下ると大勢の登山者が休んでいるので、寄らずに鎌沼へ向

かう。分岐を右に進み、酸ヶ平湿原に付けられた木道を歩いて行く。広々とした湿原を歩く道は爽快で、荒涼とした火山の風景が一転し牧歌的な風景が心を和ませてくれる。やがて鎌沼沿いに木道を歩くようになり、正面には東吾妻山のなだらかな山容が見えてくる。鎌沼の畔にある休憩所でライイチタイムとし、焼きそばと冷たいポタージュスープを美味しくいただく。ランチが済んだら木道に戻り、浄土平に向かう。姥ヶ原への分岐を左に進み、えぐれた登山道を下ると酸ヶ平からの道と合さり、まもなく浄土平に着く。トイレを済ませたら道路を渡り、吾妻小富士への登山道に取付く。大勢の観光客が登っており、下って来る人とのすれ違いに気をつかう。



10分程で火口の縁に登り着き、ここから反時計回りに火口を一周する。ガスが出て来て視界が良くないが、時折ガスが晴れると一切経山のダイナミックな火山風景が目の前に広がる。最高点の岩の上で小休止し、冷たく冷えたプリンをいただく。初めて火口を巡るS水さんは、今まで登った山と違う荒々しい火山の景色に満足したようだ。浄土平に戻り、靴を履き替えたら車に乗り帰路につく。帰りは土湯経由で国道115号線に出て、桃の直売所「くだもの



畑」でお買い物。店内のテーブルに案内され、桃を剥いて試食し漬物やサラダ、温泉タマゴ等をいただく。皆さんお腹いっぱい試食をいただき、それぞれお土産の桃をゲットする。福島西 IC から東北道に入り、予定よりも1時間30分早く栃木市運動公園へ到着した。